



Tokyo University of Pharmacy & Life Science  
(Formerly Tokyo College of Pharmacy)

1432-1 HORINOUCHE, HACHIOJI, TOKYO 192-03, JAPAN

平成 13 年 5 月 10 日

依頼者 中央サイエンス株式会社

検体名 BIO XG-310

試験目的 BIO XG-310 の毒性（急性毒性）の有無について試験

実験方法 実験動物：生後 6 週令の ddY 系雄性マウスを用いた。

試料の調製・投与：

カプセルより取り出した BIO XG-310 を秤量後、生理食塩水 0.7% CMC でけん濁し、適当濃度の投与試料を調製した。投与量に従い、ゾンデを用いてマウスに経口投与した。

投与量：

1.0 g/kg, 2.5 g/kg, 3.5 g/kg, 5.0 g/kg の 4 用量を設定し、1 群 5 匹のマウスに投与した。観察は 24 時間とした。

結果 BIO XG-310 の投与後、24 時間経過しても各濃度の 4 投与群ともマウスの死亡、衰弱、下痢などの症状は観察されなかった。

結論 急性毒性試験の結果から BIO XG-310 にはマウスを死亡させるような毒性はないといえることが明らかとなった。

192-0392

八王子市堀之内 1 4 3 2 - 1

東京薬科大学薬学部

第一生薬学教室

竹谷孝一

